



心臓血管外科
北川哲也教授



小児科
早淵康信准教授

法の研究開発のため、国の難病疾患に指定されています。肺高血圧症になると、肺へ血液を送る心臓から十分な血液が送り出せず、強い心不全症状が出現します。胸痛、息切れ、顔や四肢のむくみ、失神などが症状として出現します。肺高血圧症の原因は遺伝によるもの、自己免疫疾患に合併するもの、気管支肺疾患に併発するものなどがあります。さらに生まれつき



徳島大病院

心臓からは、全身の臓器（脳、肝臓、胃腸など）に血液を送る大動脈と、肺へ血液を送る肺動脈の2本の大きな動脈が出ています。大動脈の血圧は上腕で測定され、この値が高ければ高血圧と診断されます。肺動脈の血圧は通常では大動脈よりもずっと低いのですが、これが高くなることを肺高血圧症と言います。肺高血圧が生じる理由は、肺の細い血管が異常に狭く硬くなるため、血液の流れが悪くなるからです。しかし、なぜこのような病気が起こるのかは解明されていません。この病気の原因解明が必要であり、有効な治療

進歩著しい小児の肺高血圧症治療

先天性心疾患と以前に診断されたが定期検診から遠のいていく方、気管支・肺疾患の方、自己免疫疾患をもっておられる方、肝臓疾患、睡眠時呼吸障害の方などにも肺高血圧症が隠れている可能性があります。ぜひとも診察・検査を受けられるようお願いいたします。

肺高血圧症はいつたん発症すると予後が悪いとされていますが、近年、診断と治療の進歩が著しい点でも注目されています。新薬が次々に開発されていることに加えて、早期に診断されることで長期予後が改善される可能性が高いことが示されています。

先天性心疾患（先天性心疾患）に併発する場合があります。特に注意が必要なのは、軽微な先天性心疾患で治療の必要性がないと診断された患者さんや、幼い時に手術など治療を終えて治癒したと思っていた先天性心疾患の患者さんに、肺高血圧症が進行することがある点です。

このような方は機会のあるときに、定期検診を受けることをお勧めします。

肺高血圧症はいつたん発症すると予後が悪いとされていますが、近年、診断と治療の進歩が著しい点でも注目されています。新薬が次々に開発されていることに加えて、早期に診断されることで長期予後が改善される可能性が高いことが示されています。